

だれにでもやさしい社会を目指して

高部屋小学校

五年

土井

達満

ぼくは週に二回電車を使ってサツカ一の練習所へ行きます。その日、いつもどおり電車を待っている後ろの列に白じょうを持っていた高齢の女性が並らんでいました。ぼくは電車とホームのみぞに落ちないか心配でした。すると電車が来て声をかけようか、どうしていいかわからなくなりました。近くにあった女性がやさしく声をかけていました。なんと、言っていたかは覚えていませんが、やさしくて勇気があふれる人だと思いました。ぼくがもし目の見えない人だったら、とても不安です。次に見かけた人、声をかけたいと思います。まず、次の電車のりますか？一しよに乗りましようか？と声をかけようと思います。母に聞いたら、困っている人がいないか声をかけるのがいいと言っていました。

また別の日にエレベーターに乗ったら、介

助犬を連れた高齢の女性が来ました。ぼくは開閉ボタンを押して先におりてもらいました。その時に、ありがとうと言われ、とてもうれしかったです。その出来事があったので、これからエレベーターでは開閉ボタンを押してゆずっていただきます。白杖を持って人に声をかけることができなかつたけど、少しずつ自分が成長できていると思います。

最近、だれにでもやさしい社会になりつつあると思います。体の障がいだけでなく、ジェンダーレスなど見た目では分からない、差別やぼうかなどもあります。ぼくは、もっと広い心をもてせし、勉強していきたいです。

この経験を通して福祉について考えることができ、学ぶことができました。もっと人と人が助け合えるような社会になっていたらいいと思います。